

こども  
子供のインターネットバイブル

あんない  
案内いたします

おう  
王さまダビデ  
(その2)



ぶん

文: Edward Hughes

え

絵: Lazarus; Alastair Paterson

かいさくしゃ

改作者: Ruth Klassen

ほんやくしゃ

翻訳者: Yuko Kajiki 監修者: Dan Ellrick

しゅつぱんしゃ

出版社: Bible for Children  
[www.M1914.org](http://www.M1914.org)

©2021 Bible for Children, Inc.

きよか

たにん

う

かぎ

はなし

許可: 他人に売らない限り このお話のコピー、

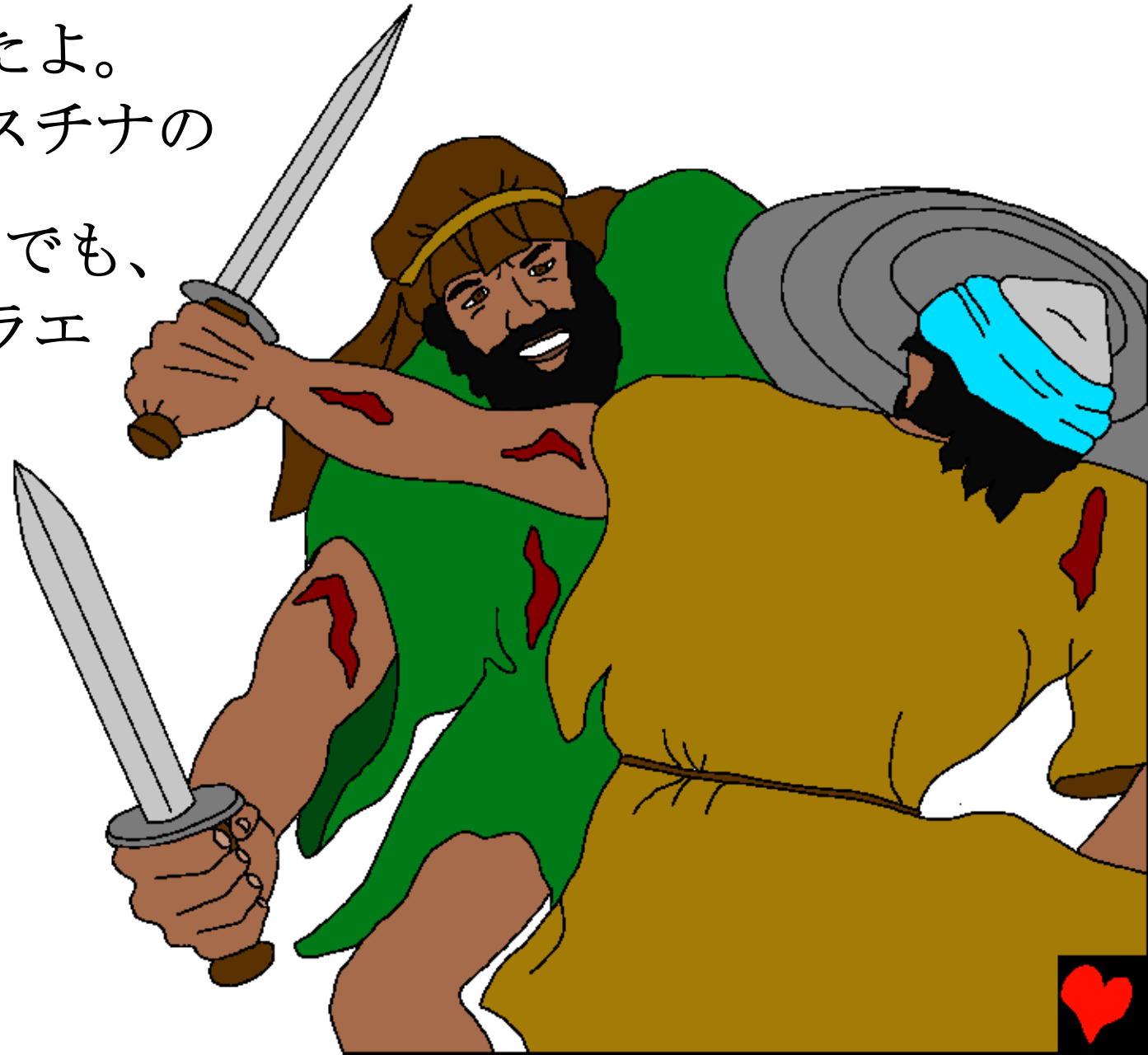
また

きよか

又はプリントは、許可されています。



おう  
ダビデは、ユダの王さ  
まとなりましたよ。  
ちょうどパレスチナの  
みなみ ち  
南の地です。でも、  
のこりのイスラエ  
とち  
ルの土地は、  
みんなサウ  
こ  
ルの子イシ  
ユボセテのも  
のでした。



ふたり

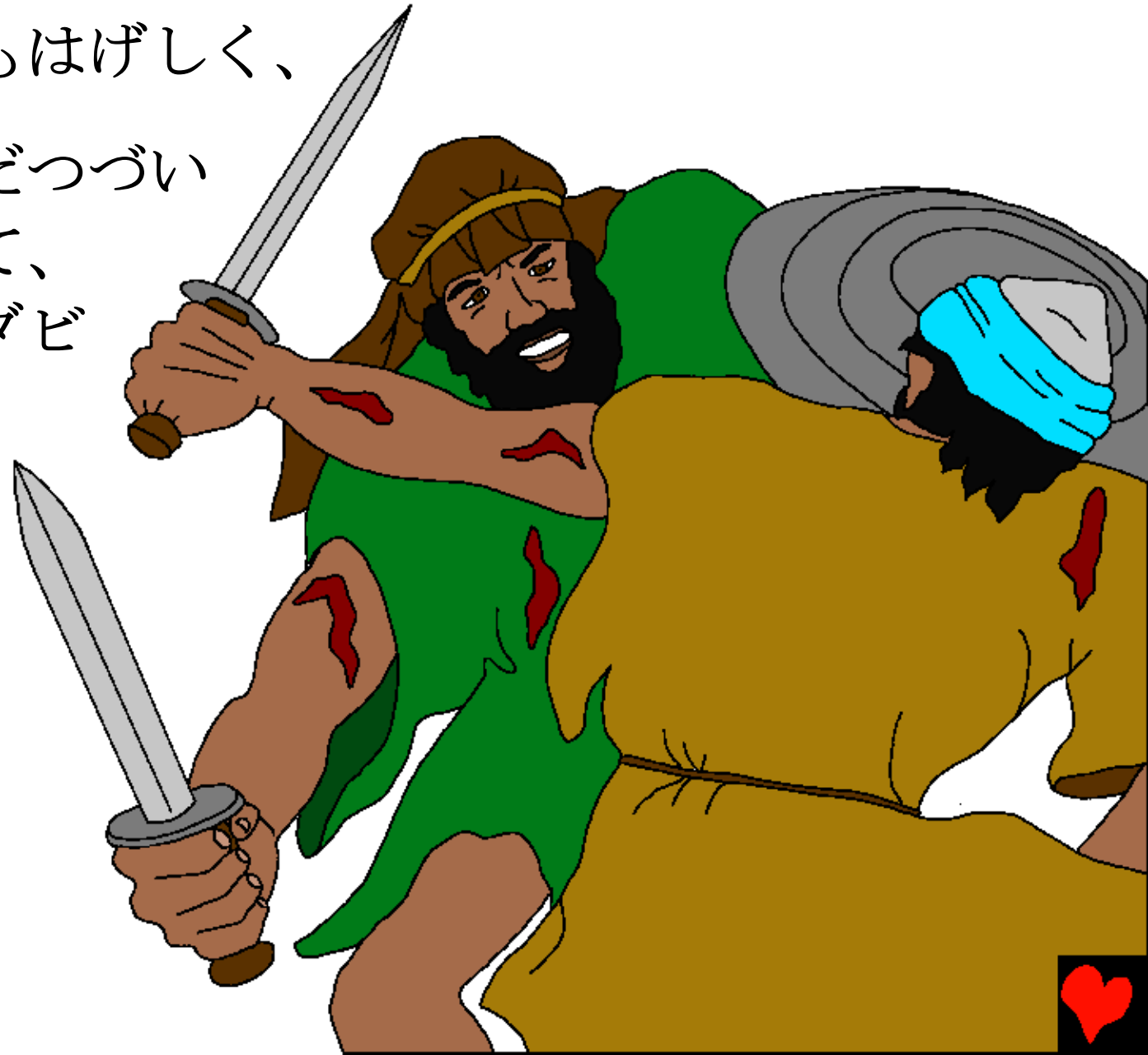
イスラエルでの2人のたた  
かいは、とてもはげしく、

ねん

7年ものあいだつづい  
たのです。さて、  
そのあいだにダビ  
デはどんどん、

つよ

どんどん強  
くなってい  
きましたよ。





あるとき、

おう

イシュボセテ王は、

じぶん ふたり

とうとう自分の2人

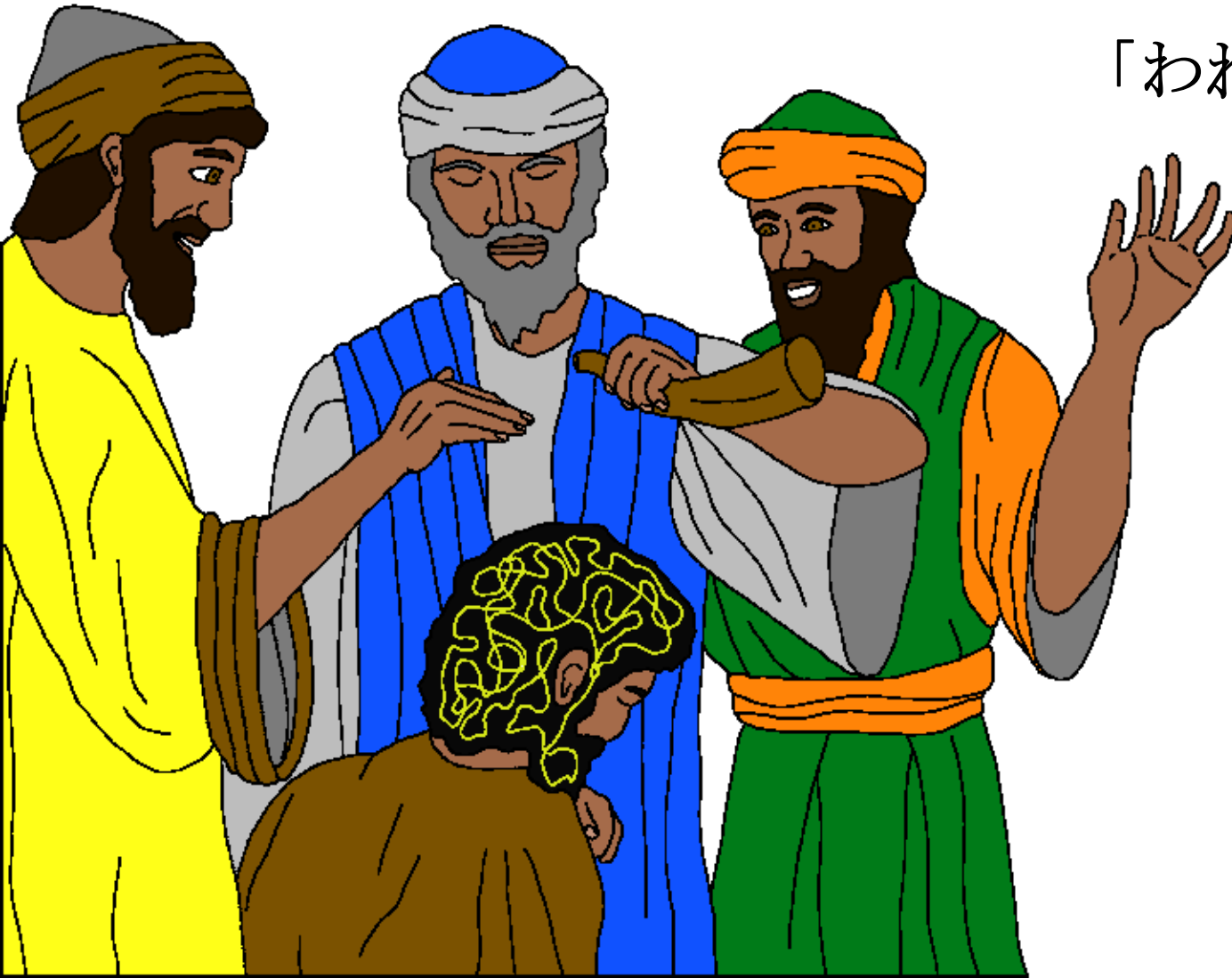
へいし

の兵士にころされ  
てしまいました。

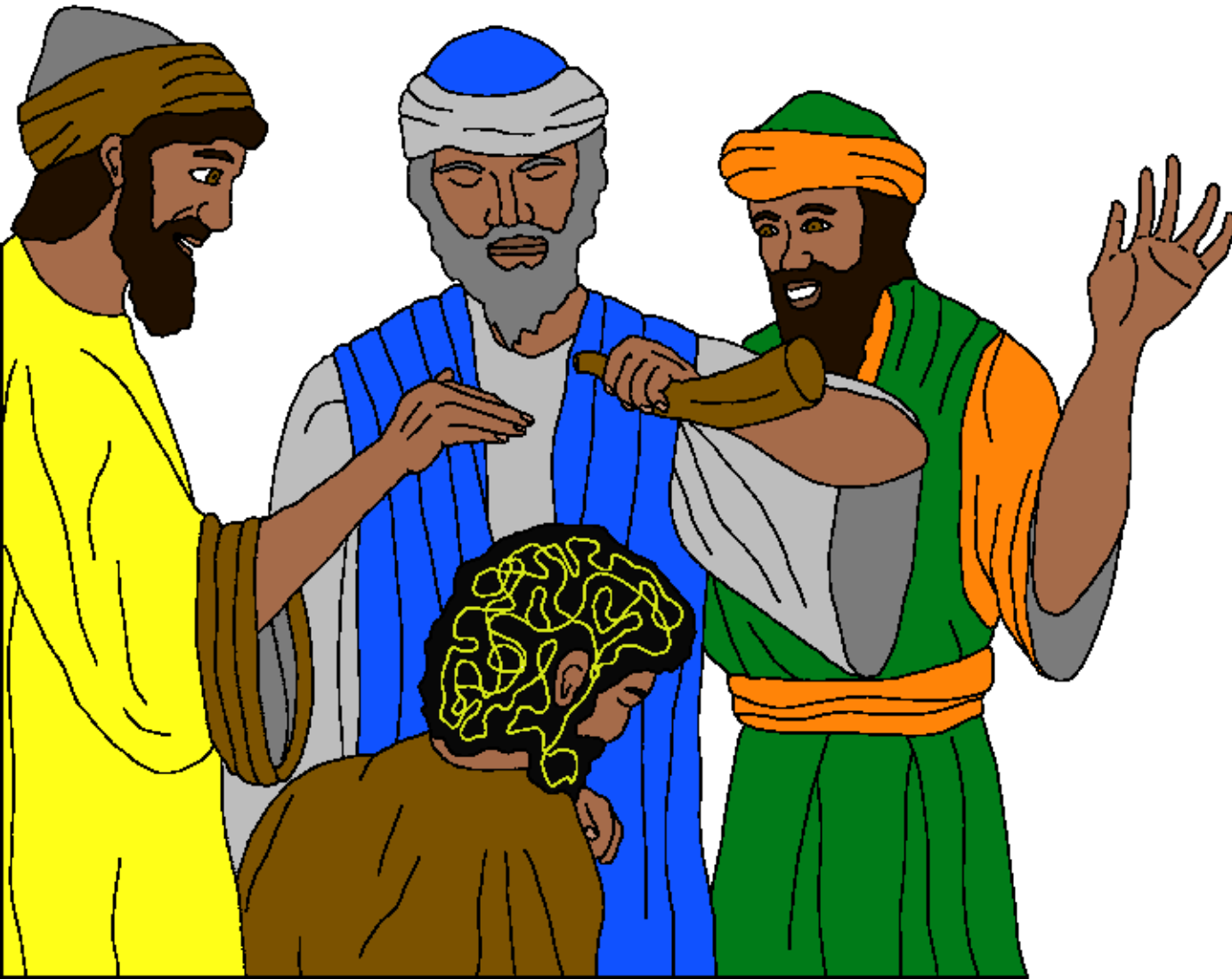


すると、イスラエルのすべての12の部族がみんなだ  
びデのところにあつまってきて、こう言いました。

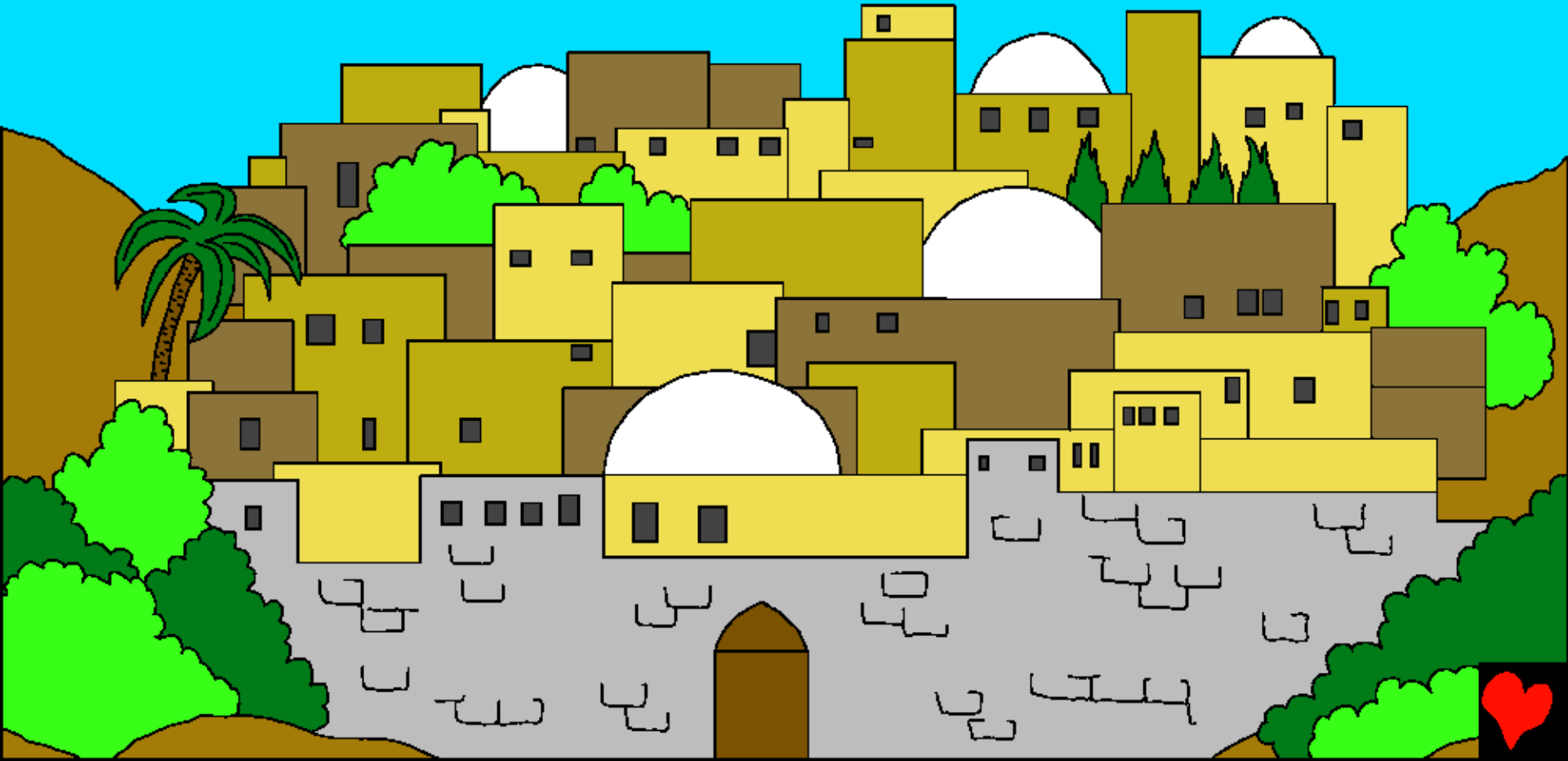
「われわれの王だ、  
イスラエルの  
王さまだ！」  
って。



それからずっと、ダビデは、  
このイスラエルのすべての<sup>くに</sup> <sup>おう</sup>国の王さまでした。

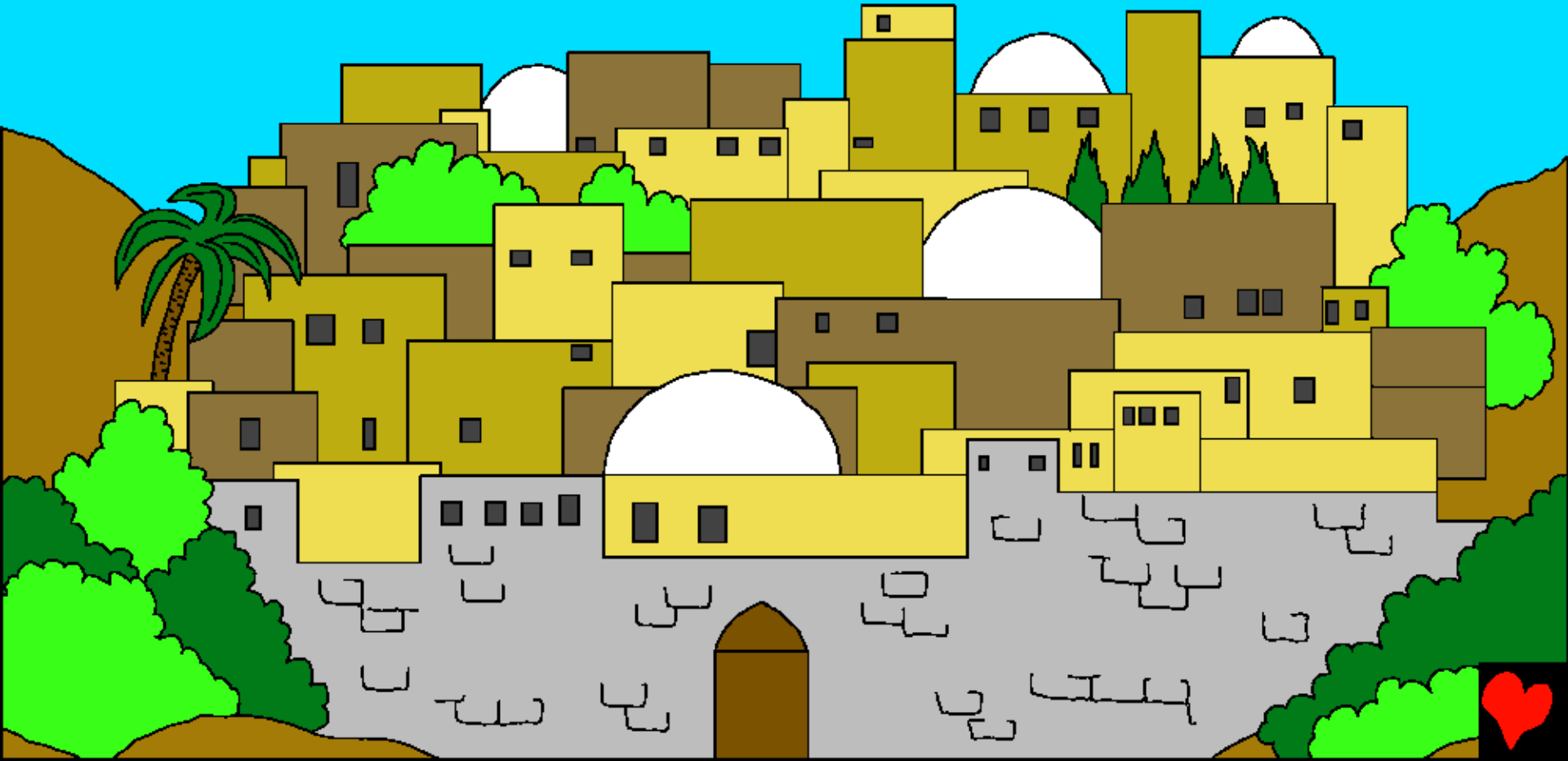


さて、ダビデがいちばんはじめにしたことは、エルサ  
レムに都をうつすことでした。その町は、のちにダビ  
デの町としてみんなに知られるようになりましたよ。

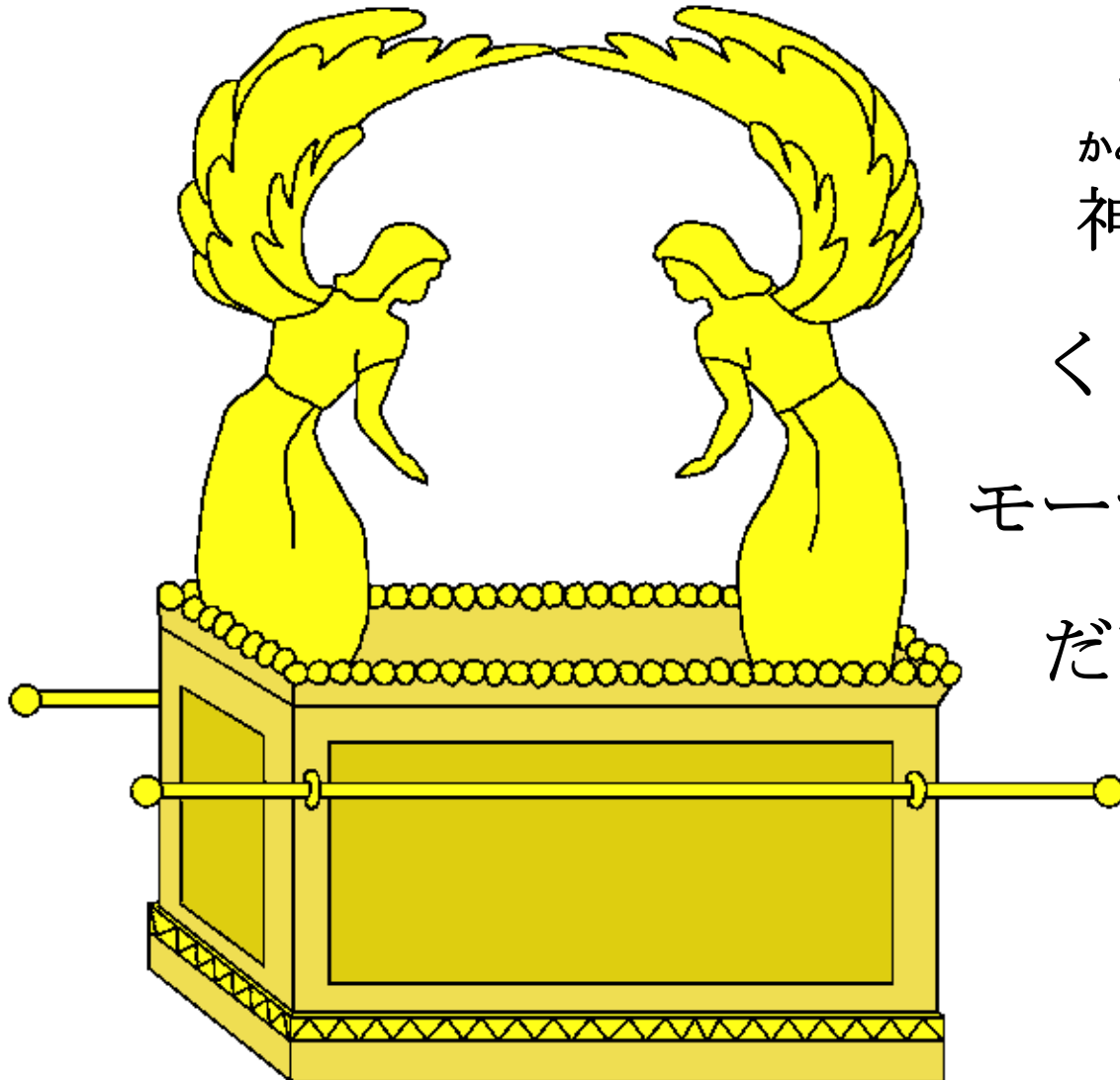




ダビデは、ここを、どんな強<sup>つよ</sup>いてき<sup>せ</sup>が攻めてきて  
もだいじょうぶなように、たてなおしました。ダビデの  
軍<sup>ぐん</sup>たいは、いつもここから、ペリシテ人やイスラエルの  
<sup>ほか</sup> <sup>くにぐに</sup> <sup>で</sup>  
他の国々のてきをやっつけに出かけていきました。



おう  
ダビデ王が、そのつぎにしたことは、神のはこを、  
エルサレムにはこんでくることでした。



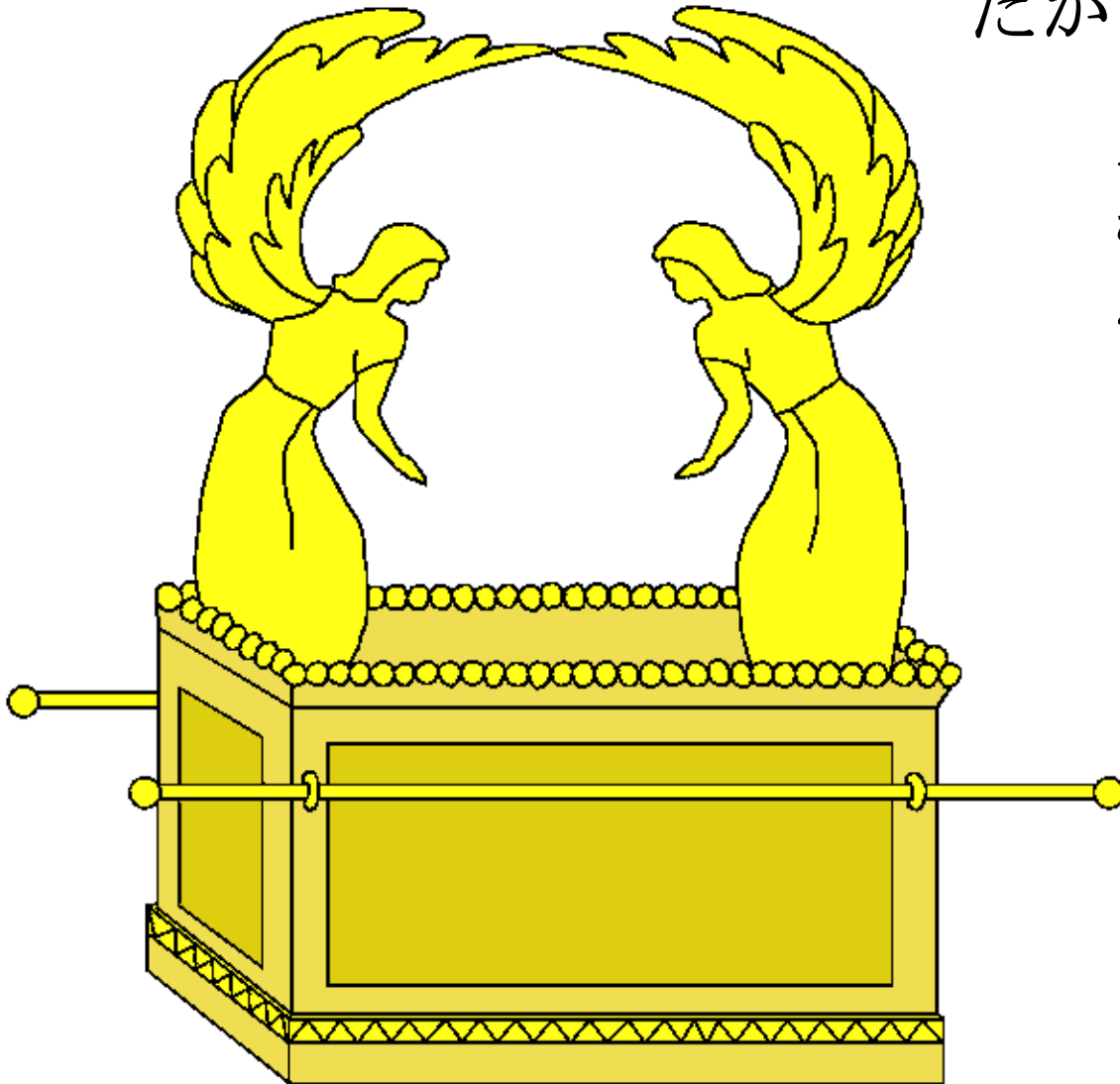
かみ  
その神のはこには、  
かみ じゅう  
神さまの十のやくそ  
か  
くが書かれたものや、  
かみ  
モーセが神さまからいた  
もの  
だいたそのほかの物も  
はい  
入っています。



かみ                      せい                      かた                      かみ  
そのはこは、神さまが聖なる方で、神さまにし

いたがって生きることを、  
ひとびと

イスラエルの人々に  
おも                      だ  
思い出させました。





おう  
ダビデが王さまになって  
から、はじめのころは、  
たたか  
まいにち戦いばかり  
でした。ダビデは、  
へいし  
とてもかしこい兵士であり、  
けっ  
それに決していばらな  
ひと  
い人でした。





かみ  
かれは、「神さま、  
どうすればいいのですか。  
おしえてください。」  
いの  
と、いつも祈っていました。





あるとき、ダビデは、  
じぶん いえ  
自分がとてもよい家に  
すんでいるのに、  
かみ  
神さまのはこが、  
なか  
テントの中におか  
れたままになっ  
ていることに、  
き  
気がつき  
ました。





かみ いえ  
そこで、ダビデは神さまの家を  
き

たてようと決めました。

かみ しゃ  
神さまのよげん者ナタ

いは、言いました。

「ダビデさま、  
どうぞそうな  
さってください。」





でもね、  
よる  
その夜、

かみ  
神さまは、  
かみ

ダビデに神の  
ことばをつた

えらましたよ。それは、

このようなものでした。「わたしのしもべダビデよ、

しゅ  
いえ  
主が、あなたに家をつくってくださるのだ。







あなたの  
よ  
この世での

せいかつ

生活がおわり、

ちち そふ

あなたの父や祖父といっしょになったとき、

こ

おう

わたしは、あなたの子をつぎの王とするつもりだ。





こ  
その子は、  
いえ

な  
わたしの名によって家をたて、

くに  
その国はずっとつづいていくだろう。

おう くらい  
またいつまでも王の位をあたえるだろう。」



ダビデは、もしサウルの家ぞくが生きのこっ  
ているなら、助けたいと思ひました。  
さがしているうちに、  
ただひとりヨナタンの子  
メフィボシエトだけ、  
み  
見つけることがで  
きました。



あし わる

かれは、足が悪くあるくことができません。

「メフィボシエト、

おう

あなたは王のむすこのようなもの。

さあ、わたしのテーブルでい

しょくじ

っしょに食事をしよう。」



このように<sup>い</sup>言<sup>い</sup>って、ダビデはメフィボシエトにほんとうにやさしくしてあげました。どうしてって、

かれはダビデのいちばん仲よしヨナ<sup>なか</sup>タンのむすこですからね。





かみ しん  
ダビデは、こころから神さまを信じ、  
い  
したがって生きていました。

かみ  
だから、神さまは、い  
たす  
つもダビデを助けてく  
ださり、すべてがう  
まくいきましたよ。





ひ  
ところがある日、ダビデは、とつぜんと  
わる  
ても悪いことをしてしまうのです。  
そのときちょうど、  
ぐん  
かれの軍たいは、  
たたか  
で  
戦いに出かけてしまい、  
ダビデだけがエルサレムに  
のこっていました。





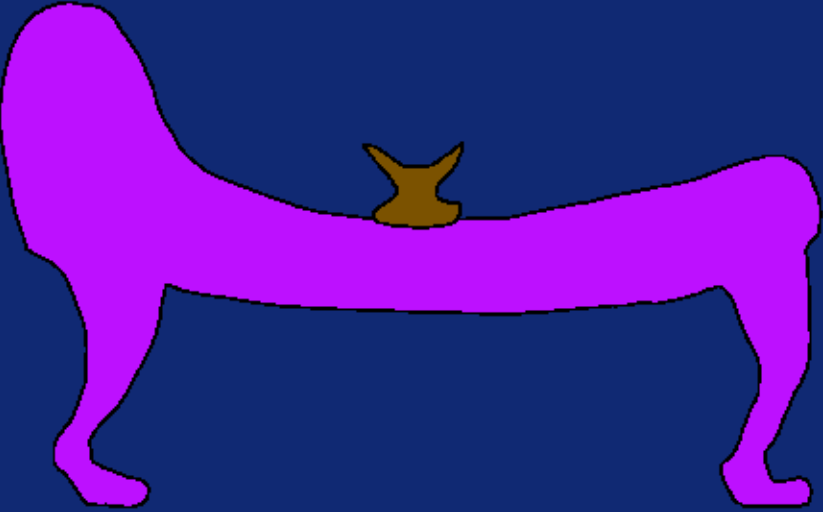
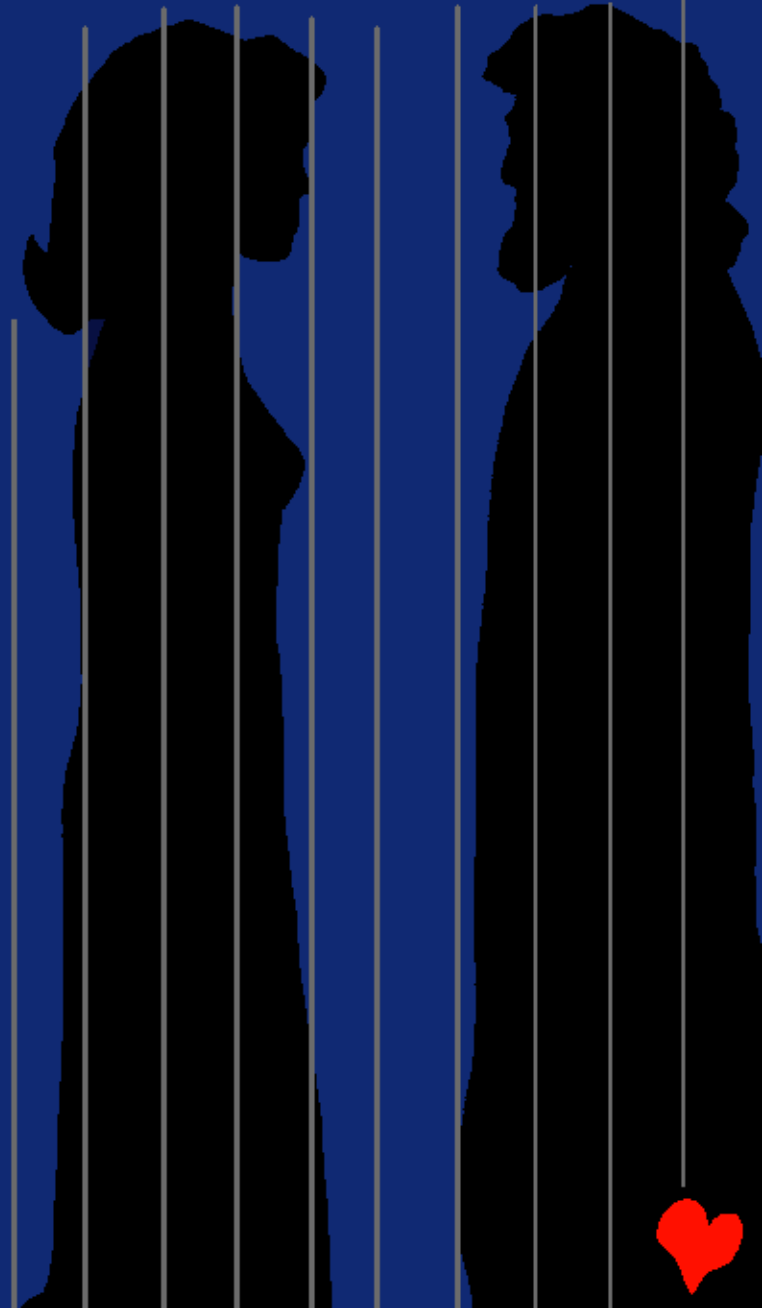
よる  
ある夜の<sup>よる</sup>こと、ダビデは  
ねむ  
どうしても眠れ<sup>ねむ</sup>ません。

いえ  
そこで、かれは家のい<sup>いえ</sup>  
うえ  
ちばん上<sup>うえ</sup>まであがり、  
まち  
ぼんやりと町<sup>まち</sup>のようす  
をながめていました。

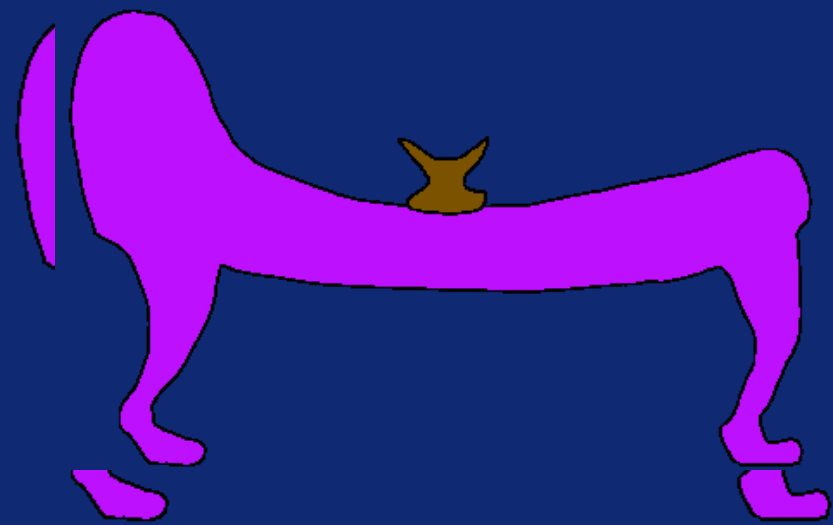




「おやっ、いったいだれなのだろ  
う。」<sup>み</sup>ダビデは、そこから見え  
<sup>おんな</sup> <sup>ひと</sup>たとてもうつくしい女の人  
が、  
<sup>き</sup>気になってたまりません。  
<sup>じょ</sup> <sup>みず</sup>かの女は、水あびをしていま  
<sup>ひと</sup> <sup>な</sup>すよ。その人の名は、バテシバ。



す



おっと

じつは、バテシバの夫ウリアは、

ゆう

へいし

ダビデの勇かな兵士のひとり

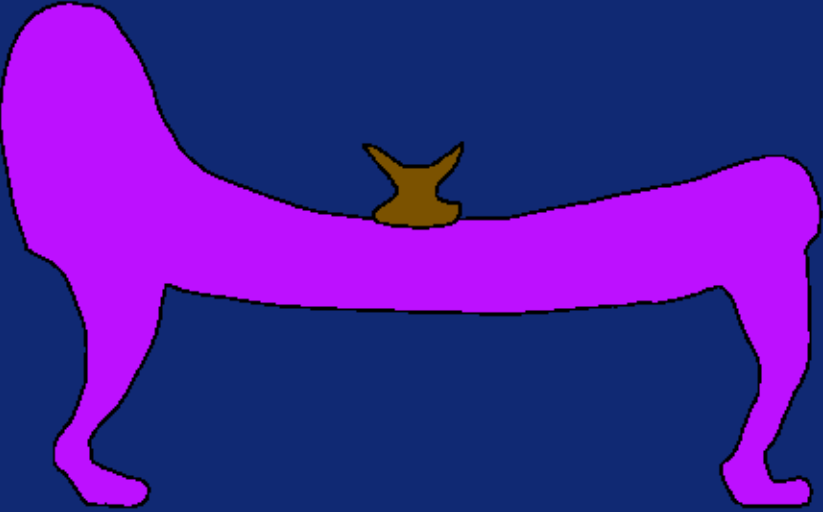
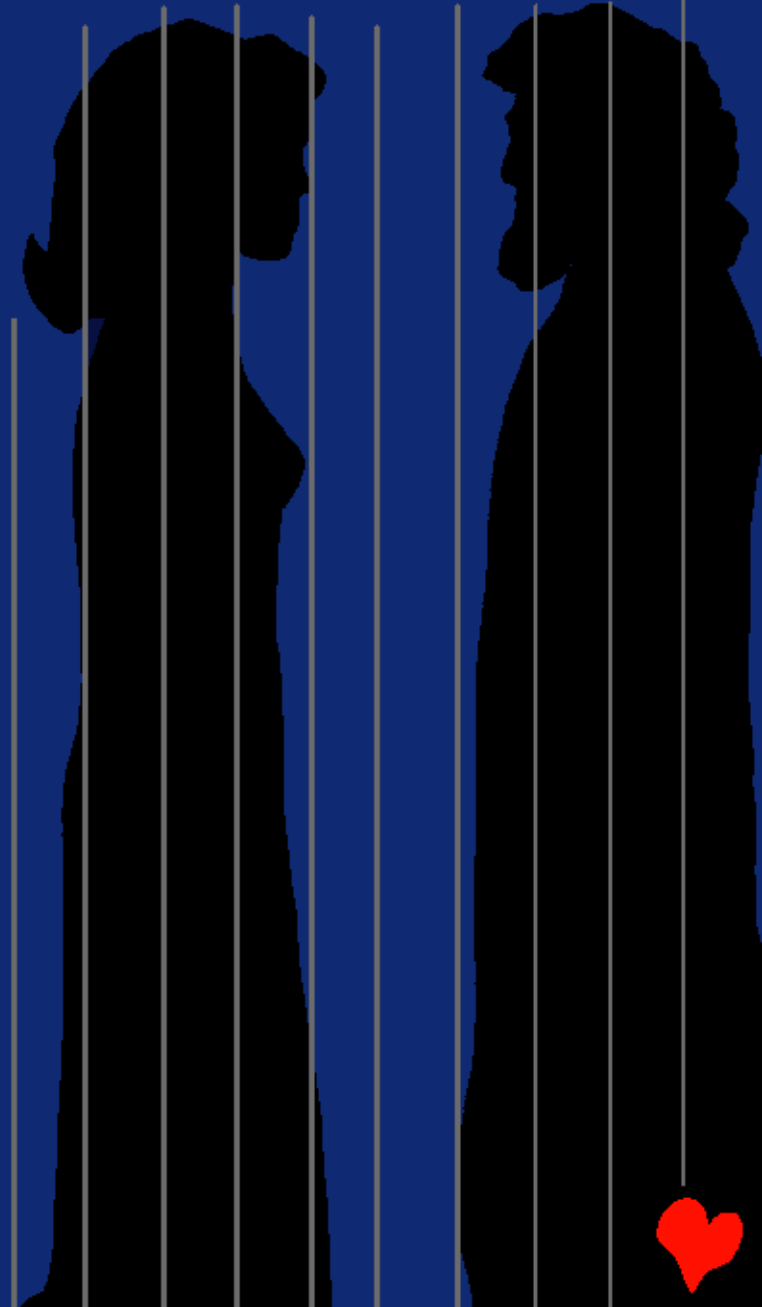
でした。しばらくして、

バテシバは、おなかにダビデの

こ

はな

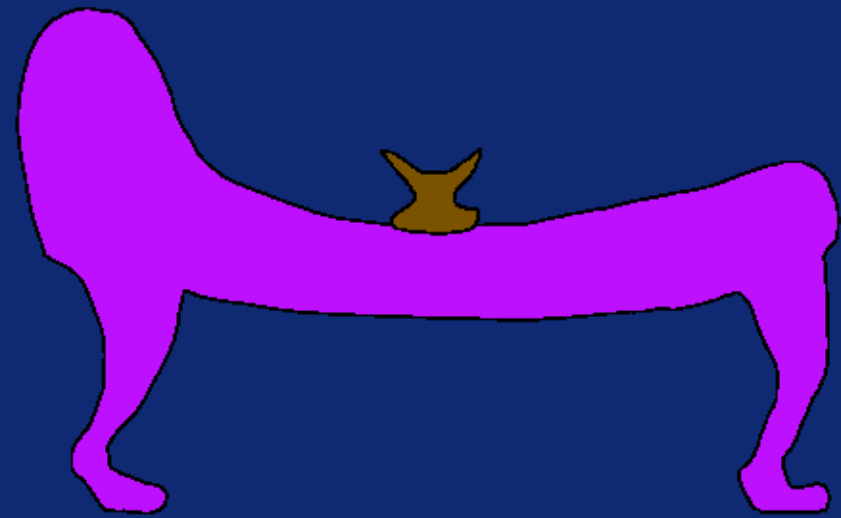
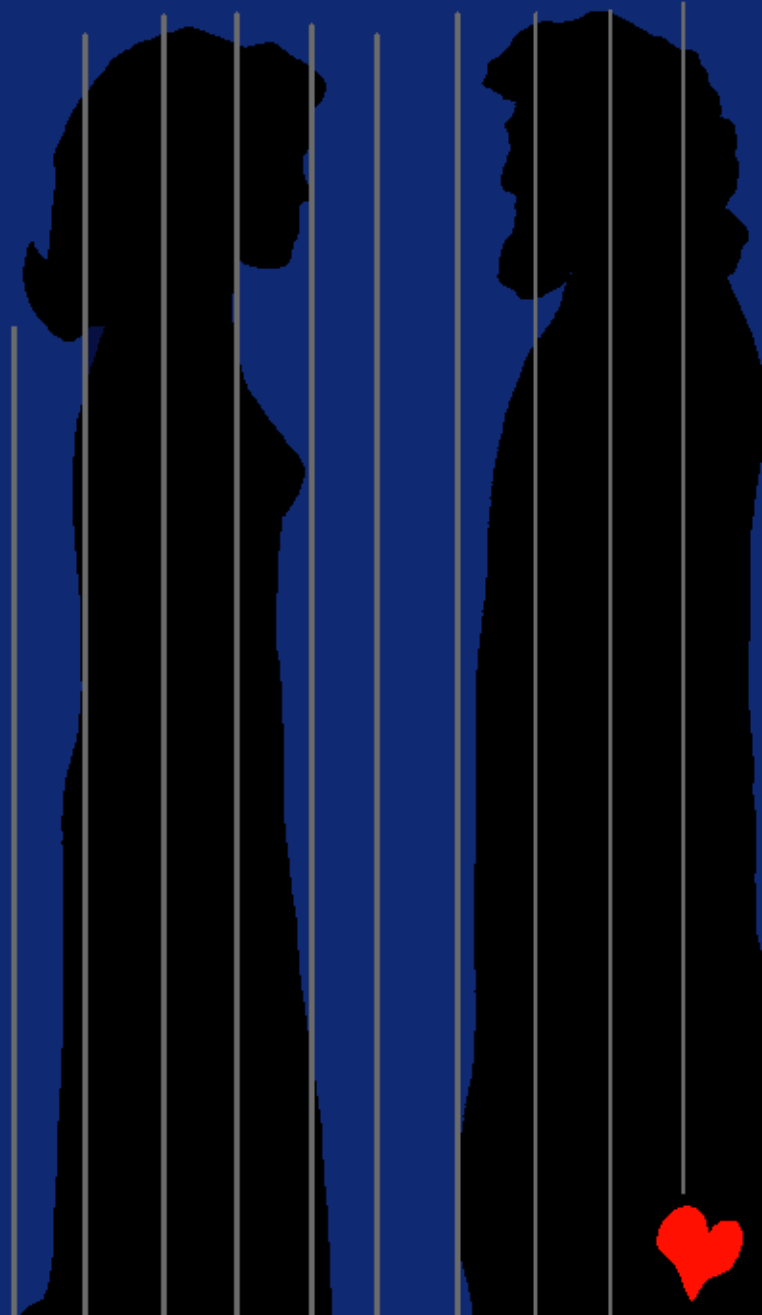
子がいることを話しましたよ。



さあ、たいへんなこと  
になってしまいました。

じぶん つみ

ダビデは、自分の罪がもっと  
もっとやっかいなことにな  
っていきのがわかりました。





「なんとかしなければ・・・。」そう思ったダビデは、  
自分の罪を神さまにあやまるかわりに、  
その罪をかくそうとしたのです。  
そんな悪いことは、うまくいくはずがないのにね。





とにかく、

たたか ち

ダビデは戦いの地

よ

にいるウリアを呼び、

い

いえ

やす

こう言いました。「家にもどって、ゆっくり休む

ように。」それは、ウリアがバテシバとすごすと、

じよ

あか

かの女のおなかにいる赤ちゃんを、

じぶん

こ

おも

自分の子と思うだろうとかんがえたからです。





ところが、

いえ

ウリアは家でゆっく

やす

り休みたくありません。

へいし

なぜなら、かれのなかまの兵士が、

たたか

戦ってるのですからね。ウリアは、その夜、

よる

おう いえ と

王の家の戸のところで、ねむりました。



そこでダビデは、もっと  
わる  
もっと悪いことをして  
しまったのです。

ダビデは、

たたか  
ウリアが戦い

ち  
の地にもどるとき、

ぐん  
軍のリーダーにてが  
みをもたせたのです。





そのてがみには、こう  
か  
書かれていました。

たたか

「戦いあいに、  
かならずウリアを  
ころ  
殺すのだ。」とね。

ころ

ウリアが殺されて、  
ダビデはバテシバを  
じぶん  
自分のおくさんにし  
たのです。



そこでダビデは、  
もっともっと悪いことを  
してしまったのです。  
ダビデは、ウリアが  
戦いの地にもどると  
き、軍のリーダーにて  
がみをもたせたのです。



そのてがみには、  
か  
こう書かれていました。

たたか  
「戦いあいに、  
かならずウリアを  
ころ  
殺すのだ。」とね。

ころ  
ウリアが殺されて、  
ダビデはバテシバを  
じぶん  
自分のおくさんに  
したのです。



かみ

神さまは、しもベナタンに言われました。「ダビデ

い

つみ おし

に、かれのおかした罪を教えてあげなさい。」

そこで、ナタンはダビデにひと

はなし

つのお話をしました。たいへ

かね

んなお金もちの人と、

まずひと

貧しい人の

はなし

お話ですよ。

かね

お金もちは、

たくさんのヒツジを

もっていました。

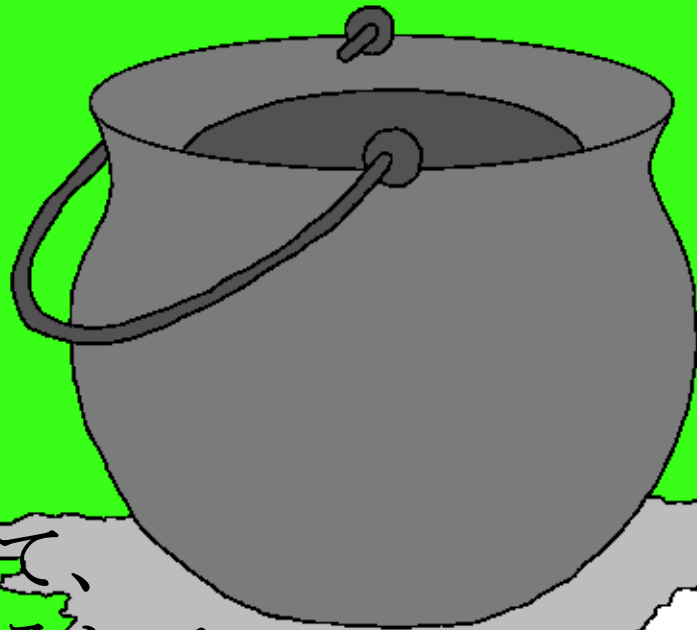




あるとき、ひとりのたび人が、お<sup>かね</sup>金<sup>かね</sup>もちのところに  
やってきました。けれども、そのお<sup>かね</sup>金<sup>かね</sup>もちは、たび人<sup>ひと</sup>  
にごちそうするため、かれのヒツジを1ぴきもころさ  
なかったのです。そのかわり、

お<sup>かね</sup>金<sup>かね</sup>もちは、貧<sup>まず</sup>しい人<sup>ひと</sup>の1ぴ  
きしかいない子  
ヒツジ  
を取

って、  
ころして、  
たび人にごちそ  
うしたのです。



ダビデはおこりました。

かね

「その金もちは、

わる

なんて悪いやつだ！」

そしてさげびました。

「そんなことをするやつは、

し

きっと死んでしまうこと

になるだろう。」



「ダビデさま、あなたこそ、その悪いやつなので  
す。」ナタンは、ゆう気をだしてダビデに、きっぱり

こう言いました。  
ダビデのやったこ  
とは、この金も  
ちがやった  
ことより、  
もつとも  
つと悪  
いことなの  
ですからね。





かみ

おし

神さまは、ダビデに教えられました。ダビデのしたことは、どんなにひどいことかということ。

じぶん

それでダビデは、自分のお

つみ

かした罪がよくわかり、

こころ

かみ

心から神さまにあやまり

かみ

ました。「神さま、わたし

はあなたにそむい

わる

て、こんなにも悪い

いことをしてし

まったのです。



どうぞ、おゆるしく下さい。」<sup>かみ</sup>神さまは、

<sup>つみ</sup>ダビデの罪をゆるして下さ  
いましたよ。けれども、

<sup>あか</sup>バテシバの赤ちゃんは、  
<sup>びょうき</sup>病気になる、<sup>う</sup>生まれて

<sup>し</sup>からすぐに死んで  
しまいました。



かみ

神さまは、

つみ

ダビデのそのひどい罪をゆるして  
くださいました。しばらくして、

つき こ

バテシバに次の子ができました。

こ な

その子の名は、ソロモン。

かれが、ダビデのあとすば

おう

らしい王になるのです。



ダビデは、それからもたくさんの子  
をあたえられましたよ。でも、

なんにん こども

何人かの子供たちは、  
ダビデをととてもかなしませ  
ることになるのですけれど。



おう

# 王さまダビデ (その2)

かみ

み

せいしょ

しる

神さまの御ことば、聖書に記されているおはなしです。

げ

しょう

しょう

サムエル記下 1 章 -12 章

み

ひら

ひかり

あた

あなたの御ことばが開かれると、光が与えられます。

しへん

詩篇 119:130



おわり



せいしょものがたり わたし かみ  
この聖書物語は、私たちをつくってくださったすばらしい神さまに  
かみ かみ  
ついて、おはなししています。神さまは、あなたが、神さまのことを  
おも  
しってほしいと、思っています。

かみ わたし  
神さまは、私たちが、よくないことをしてしまったことを、しってい  
かみ つみ つみ  
らっしゃいます。それを、神さまは、罪とよばれています。その罪の  
し かみ あい  
むくい、死です。けれども、神さまは、あなたをととても愛してい  
ひとり こ よ おく  
らっしゃいますので、ただ一人のみ子イエスさまを、この世に送って  
つみ じゅうじかじょう な  
くださいました。そしてあなたの罪のために、十字架上で亡くなられ  
てんごく  
たのです。けれどもそれから、イエスさまはよみがえられ、天国のい  
しん  
えへ、もどられたのですね。もし、あなたがイエスさまを信じ、ゆる  
してくださいとおねがいするなら、イエスさまは、ゆるしてください  
いま ところ き なか  
ます！イエスさまは、今、あなたの所へ来て、あなたのこころの中に  
す い  
住んでくださいます。そして、いつまでもイエスさまといっしょに生  
きるができますよ。



もし、あなたが、これがほんとうだと信じるなら、神さまにこう言っ  
てください。

愛する神さま、私は、あなたが神さまと信じます。あなたは人とな  
り、私たちの罪のために亡くなってくださいました。そして、よみ  
がえって、いま生きて

いらっしゃいます。どうか、私のところの中に来て、罪をゆるして  
ください。それで、私は今、あたらしい命をいただけます。そし  
て、いつか、あなたの所へ行き、いつまでもあなたといっしょにい  
ることができるのです。あなたにしたがえますよう、あなたの子とし  
て生きることができますよう、たすけてください。アーメン

まいにち、聖書をよみ、神さまとおはなししましょう！ ヨハネによ

る福音書 3 : 16

